

令和4年度第1回大船渡市地域安全推進協議会 議事録

1 開催日時及び場所

○日時 令和4年7月19日（火） 午前11時～正午

○場所 大船渡市防災観光交流センター 多目的室1

2 委員数 20名

3 出席者

○委員 14名

- ・江 刺 由紀子（気仙地区少年警察ボランティア協会）
- ・山 下 タエ子（大船渡市社会福祉協議会）
- ・近 藤 均（大船渡市防犯協会連合会）
- ・及 川 久美子【代理：細谷君江さん】（大船渡市各種女性団体連絡協議会）
- ・藤 原 り つ（大船渡市更生保護女性の会）
- ・熊 谷 賢 児（岩手県高等学校長協会気仙支会）
- ・大 場 江利子（大船渡市小中学校長会）
- ・亘 理 拓 也（大船渡市PTA連合会）
- ・伊 藤 英 子（気仙地区保護司会）
- ・菊 池 まゆみ（大船渡商工会議所）
- ・村 上 香 菜（大船渡市農業協同組合）
- ・阿 部 なつ子（大船渡市交通指導隊）
- ・早 野 洋 平【代理：斉藤課長代理】（大船渡警察署生活安全課）
- ・菅 原 和 郎（大船渡警察署交通課）
- ・佐 藤 真（大船渡市教育委員会事務局）
- ・伊 藤 真紀子（大船渡市市民生活部長）

○事務局（大船渡市市民生活部市民環境課） 3名

市民環境課長 鈴木康代、課長補佐 白土美都、係長 熊谷安希子

4 議事の経過（協議内容等）

(1) 開 会

白土課長補佐の司会により進行。

(2) 会長挨拶

江刺会長より挨拶。

その後、白土課長補佐より、今年度新たに委員に委嘱された方々8名を紹介。

(3) 講 話

大船渡警察署交通課の菅原課長と、生活安全課の斉藤課長代理が講師となり講話。

「管内の交通事故情勢発生状況等について」 講師：菅原課長（当日配付資料）

- 過去 10 年間、少子化により子どもの県内人口は減少しているが、この減少ペースを上回るペースで、子どもに関係する事故件数は大きく減少している。このことは、個々のドライバーの子供を守ろうという意識が高まってきていることや、子どもに対する交通安全教育が浸透してきたことが要因と思われる。
- 子どもが亡くなる死亡事故は増減を繰り返している状況であり、平成 30 年には県内で 4 人もの子どもが事故により亡くなっている。子供が亡くなる死亡事故の詳細を確認すると、チャイルドシートの装着に問題があるものや、子どもが信号無視したもの、車の死角にしゃがんでいて保護者が誤って轢いてしまったものなどがある。一方で、信号に従って横断歩道を渡っている時に轢かれたケースのように、子どもに何ら落ち度のない事故も発生している。
- これらの状況から、子どもを事故から守るのは大人の責任であると言える。チャイルドシートを確実につけさせることや、信号を守る等の交通安全教育をしっかり身に着けさせること、車の死角に注意すること、通学路の安全を守ること等、大人の果たす役割が非常に大きい。
- 高齢者ドライバーによる死亡事故の特徴としては、正面衝突や通常的車線から逸脱したことが原因となっている事故が多い。居眠りや病気発症等の体調が要因となっていたり、ぼんやり運転・よそ見運転といった注意力を欠いた運転が要因となっている。
- 警察としては、幹線道路において取締りやパトカーの姿を見せる行動を行って、ドライバーに注意力・緊張感を持たせる活動を行っている。
- 高齢歩行者の死亡事故については、基本的な道路横断時の安全行動である「止まる・見る・待つ」ということができていないことが原因となっていることが多い。また、高齢歩行者の事故は薄暮時・夜間に発生することが多いが、反射材用品を着用していないケースが非常に多い。過去の統計では、歩行中、反射材をつけずに事故に遭っている割合が非常に高い。反射材用品が事故防止に資するものであることがわかるとともに、「反射材をつける」という意識を持つ人は、そもそも無謀な道路横断等の危険な行動をすることが少ないものと思われる。
- 様々な広報啓発を実施し、基本的な歩行者の安全行動や反射材用品の有効活用について浸透を図っていきたい。

「管内の治安情勢等について」 講師：斉藤課長代理（資料 5～8 ページ）

- 気仙地域において特殊詐欺の被害認知はないが、予兆電話等は数多く相談が寄せられている。金融機関等において、ATM を操作する高齢者の様子などから被害を防止したケースなどもあり、警察署長の感謝状を贈呈して取り組みを強化・推進している。
- 脅威事犯とは、前兆事案とも呼んでいる子供や女性を対象とした不審者、つきまとい、追従などといった事案。関係機関との連携や情報発信、「ながら見守り」などにより、行為者の特定につながっていると思われる。
- 生活安全部門で扱う全ての案件に関して、まずは早期に通報していただきたいことを

重ねて申し上げたい。気仙地域は防犯カメラの台数も十分でなく、通報が遅くなるほど追跡も困難になってくる。躊躇せずに、タイムリーな通報をお願いしたい。

- 地域の方になるべく負担をかけない範囲で警察活動にも御協力いただける「ながら見守り」ということで、登下校の時間帯等を中心に地域の皆さんで子供や女性を対象とした見守り活動を通じて防犯意識を高めていただき、細かいことでもご相談いただきながら連携して対応していきたい。また、『ぴかぼメール』を是非登録していただきたい。
- 資料以外について、特殊詐欺（靈感商法、仮想通貨等）について、参考までにお伝えしたい。
- 特殊詐欺の事務所は、古いアパートの一室等様々であるが、被疑者については高額の高層マンションなどに住んでいる等の現状を目の当たりにして、本当に許せないと思う。詐欺もいろいろな種類があるが、仮想通貨の詐欺は連鎖販売取引（ねずみ講）・マルチ商法などを活用したようなものであり、特徴としては地方に被害者が多く、被疑者は大都市に住んでいるという傾向がある。彼らは罪の意識も徐々に薄れ、自分の生活を良くすることしか考えていない。暴力団の後ろ盾があるといったところもあるが、捕まえても上層部までは全く手が届かないのが現状。
- 彼らは次々といろいろな手立てを考えている。最近では、より手口が巧妙化しており、闇金の返済に電子ギフト券を使うといったものもあり、追跡も困難になっている。具体的には、ギフト券の購入者の特定が難しく、電子記録（ログ・証跡）も消えてしまうので、すぐ認知してすぐ捜査しないと全く間に合わないということになる。それも踏まえた上で、速やかな通報にご協力をお願いしたい。

【質問意見等】

〔江刺会長〕「脅威事犯」について、管内の行為者特定件数5件とあるが、具体的な内容、発生の場所・時間帯等を可能な範囲でお聞かせいただけないか。

〔斎藤課長代理〕不審者を見たということが中心であり、日中が多い。捜査を進めないと実態はわからないところ。

(4) 協 議 ——防犯パトロールカードの作製・配布について——

ここから江刺会長が議長となり進行。

事務局の白土課長補佐より、別添資料により説明。

〔事務局〕

平成28年度から実施しているが、これまで委員が所属している団体に相当数配布してきたが、今年度も作製し、地域の防犯意識の高揚を図ることとしたい。

〔江刺会長〕

只今、事務局より説明があったが、防犯パトロールカードについては、私たちの負担が少なく、効果の大きいものと考えて始まったもの。当初は、設置している車を見かけないという声もあったが、これまでに2,000枚は配布を完了している。個人だけでなく、企業の公用車などの見えるところに掲示していただき、私たちの見える防犯活動ということで、車を運転する度にアピールしている。効果を図るのは難しいが、今年度も継続して実施していきたい。配布枚数について、考えはあるか。

〔事務局〕

皆様の意向に沿いたいと思うが、それぞれの所属団体の会員人数を上限としたい。配布希望調査も8月中には取りまとめをし、9～10月には配布できるよう準備を進めたい。

〔江刺会長〕

より良くするためのご意見や、問題点の共有などあったら、お願いしたい。

〔阿部委員〕

毎朝、小学校の前に立哨しており、どんな車がパトロールしているのかと気にしているが、カードを掲示した車を見たことがないように思う。また、会長の冒頭挨拶にあったが、子供たちに横断歩道で停まってくれた車にはお辞儀をするようにと教えている。最近、子供たちの方から行くことが多い。すごく良いことだと思って、朝、気持ちよく送り出している。

〔江刺会長〕

困ったことは減らして、良いことは広げていきたいと思う。保護者、PTA会長の立場からはどうか。

〔亘理委員〕

実際のところ、(パトロールカードは)あまり見たことがない。ただ、目にすればこちらも意識するので、小さい取り組みかもしれないが継続していくことが大切と思う。

〔江刺会長〕

公用車にも搭載されているようだが、教育委員会ではどうか。

〔佐藤委員〕

実はプライベートでは見たことがない。どういう形で効果があるかを検証していければ、なお良いのかと思う。

〔江刺会長〕

では、今年度も引き続き取り組みを継続し、必要な箇所へパトロールカードを配布しつつ、その効果についても検討していくこととして良いか。

～賛 成～

〔江刺会長〕

では、今年度も取り組みを進めていくこととする

(5) 情報交換

事務局の白土課長補佐から、**別添資料**「大船渡市消費生活センターにおける相談事例について」により事例紹介。

〔江刺会長〕

他に、学校の夏休み期間についても情報提供されている。コロナの第7波ということもあるが、経済活動が活発になり、様々なイベントも開催されるため人の行き来も増えている。まずは、学校の先生方から子供たちの様子や、夏休みの取り組みをお聞かせいただきたい。

〔熊谷委員〕

高校3年生については、受験対策のためほとんど夏休みはない。一番気になっているのは、成人年齢が4月から18歳となったこと。高校3年生の途中から成人となる。契約に関する事など、どういったことに気を付けなければならないか、学校では公民や家庭の授業でも

伝えていきたいし、金融関係の専門家を招いて講話をいただこうかと考えている。

〔大場委員〕

大船渡では保護者からの希望もあり学校もプール開放できるとのことで、子供たちの遊び場が学校であることは安心できると考えている。また、自転車事故等も多く耳にするので、夏休み前には注意喚起したい。さらに本日、3・4年生以上を対象に防犯教室を開催していたが、スマホの保持率も高くなってきており、SNSなどに運動着のマークが入った写真を投稿してしまうなど、些細なことから犯罪に巻き込まれるのだということを知ってもらわなければいけないと思っている。

〔江刺会長〕

自転車については、子供たちにはいろいろ指導するが、実は大人たちの方が急に飛び出したり、逆方向に走ったりと気を付けるべきところが多いようにも感じる。また、SNS等に関しては、子供たちが相談しやすい関係性も大事。

〔伊藤英委員〕

気仙地区の犯罪件数は減少しているが、先日、刑務所から出所して数日後に「刑務所に戻りたい」という理由で罪を犯したという新聞報道があった。服役している間に世の中が変わっており、出所してみたら居心地が悪いから元居た所に戻りたいということが話されていた。世の中がスピードアップしていく中で、そういった方々をどうやって支援したらいいのか、ということは悩みどころ。再犯防止については、市でも計画を立てるとのことだが、こうした意識を皆さんで共有できることが大切かと思う。また、横断歩道を渡った後にお辞儀をすることについて、以前、挨拶をしていた子供たちが大人になった時、今度は自分たちが止まる行動につながるのだという話を聞いたことがある。

〔近藤委員〕

小学校低学年の子供たちが、歩道で追いかけたり押し合ったりしている様子を見て、危ないなと思っている。真っすぐ歩けないにしても、せめて歩道からはみ出さないように願っている。

〔江刺会長〕

事故は一瞬。いつ自分が事故に遭うかもわからないという危機感を、いつも心のどこかに持っておきたい。大人が子供に繰り返し伝えていくことが大切と感じる。

(6) その他

特になし。

(7) 閉 会

正午閉会。